

平成 27 年度 神奈川衛生学園専門学校 自己点検評価結果

(1) 教育理念・目的・育成人材像

本校は 1956 年（昭和 31 年）に神奈川県小田原市に設置され、初代理事長後藤真一が掲げた「私たちの学ぶ技術は、芸術であり、科学であり、職業でもある」を建学の精神とし、「心ある、そして考える医療人の育成」を教育理念として掲げている。

現在では看護師、あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師を養成し、各専門分野における医療人の育成に取り組んでいる。

教育理念や育成人材像は分かりやすく図も用いて表現し、ホームページ、学校案内（パンフレット）、学生便覧などにより、教職員や学生だけでなく、広く社会一般に情報発信している。

また、学校関係者評価の実施に向けての取り組みの準備を行う予定である。

(2) 学校運営

本校の運営方針や事業計画等は法人組織として位置づけられている企画調整局を中心に策定し、理事会・評議員会で決定され、学校法人後藤学園として毎年 4 月に開催される新年度会にて教職員に周知している。

その他、学校運営に必要となる規程等については平成 27 年度に「専門学校等評価基準書 Ver. 4.0」に基づいて点検を行った。規程の整備については、関連する会議や委員会において検討し、早期に承認を得るような仕組みづくりを徹底していく。

(3) 教育活動

本校には、看護師を養成する看護学科及びあん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師を養成する東洋医療総合学科が設置されている。

各学科認定規則に基づきカリキュラムを編成し、教育到達レベルや教授内容等についてシラバスに記載している。また、職業実践教育の視点による教育内容の工夫に関しては各学科とも臨床実習・臨地実習等において適切に実施している。

授業評価制度については、学生による授業評価を実施している。今後は評価結果の活用方法を再検討し、より充実させていく。

成績評価については学則に明確に定め、適切に運用している。教員の知識・技能レベルは各認定規則に基づいて採用していることから関連業界等のレベルに適合している。

国家資格・免許の取得に関連する 3 年間の計画を立案し、指導体制を明確にして実施している。

また、アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者などの試験対策を充実させている。今後は、各学科の取り組みの進捗状況を確認しつつ情報を共有しながら、引き続き資格取得に向けた指導強化を図っていく。

(4) 学修成果

平成 27 年度卒業生の平成 28 年 4 月時点での就職率は、東洋医療総合学科では 81.7%であった。設

置学科の特性上資格取得と就職とが密接な関係にあり、卒業後に就職活動を開始する学生がいる現状から、6月末にはほぼ100%の就職率となる。各学科とも国家試験合格率100%を目標に学習支援に取り組んでおり、今年度は東洋医療総合学科で合格率あん摩マッサージ指圧師100%、はり師97.3% きゅう師98.6%であった。

今後は卒業生の社会的評価を把握するため、同窓会組織との連携強化や卒業生の就職先へのアンケート等の実施に向けて取り組んでいく。

(5) 学生支援

学生生活全般を支援するように努めており、学生生活の相談や就職支援体制は整備されている。

学生生活（精神面・学業面）については、各学科ともに個人面談を実施することにより学生からの相談に対応している。

学習面に関しては、卒業率向上に向け、平成27年度退学者の要因分析を実施し、退学者低減に向けて学習支援の強化を行う。精神面に関しては専門のカウンセラーを置き、学生支援の体制を整えている。

健康面では、健康相談室・附属はりきゅう臨床施設を設置し学生の健康管理に努めている。学校医と保健室との連携、相談ルートの明確化や、近隣病院との連携などより一層の充実が必要である。進学・就職については、就職ガイダンスや病院説明会などを実施し、早期より学生から職業に対する意識を持たせるなど、キャリア教育にも努めている。

経済的側面に関しては、日本学生支援機構奨学金など各種奨学金制度、教育ローン、提携銀行ローンの紹介をしている。

また、より一層保護者との連携を図る為、保護者・保証人会を年2回実施する予定である。

(6) 教育環境

専修学校設置基準に基づき教室・実習室等整備されており、教育設備備品については毎年度各学科で予算計画を立て、その充実に努めている。

特に図書室は医学書を中心に約13,500冊の蔵書があり、司書が常駐しサポート体制ができています。

学外実習については、看護学科は臨地実習において実習施設及び実習指導者と連携し、適切に実施している。また、東洋医療総合学科では、学外施設の協力を得て体験・見学実習を行っている。

防災体制については、防災マニュアルに定め、防災訓練も毎年2回実施している。

安全管理体制については、防犯システムを導入し24時間体制で管理している。

(7) 学生の募集と受け入れ

学生募集にあたっては、法人広報室を中心に各学科教員や職員とも連携を図り、ホームページや入学案内などによる広報活動や体験入学、学校見学、入試相談等による募集活動に取り組んでいる。

また、学校訪問を重点的に行い、進路担当者との信頼関係構築を目指すとともに、ガイダンスへの参画などによる募集活動も行い、入学定員の充足に努めている。

入学選考については学則に基づき、適正に実施している。

(8)財 務

平成 27 年度からは神奈川衛生学園専門学校の運営が横須賀校舎のみに集約されることによる経費減、同校看護学科の定員増（40 名）による学納金収入増加となるため、法人全体としての事業キャッシュフローは改善が見込まれる。

本校における予算管理は、各学科・部署ごとに計画を立て、半期ごとに執行状況を確認している。今後は教育環境をより充実させていくため、入学前サポートや模試の受験料など教育内容に関する項目についても予算管理していく必要性を感じている。今後は規程等の整備をし、予算の計画や管理に関する運用上のルールを定め、適切に運用していくことが必要であると認識している。

会計監査は公認会計士による監査が適時実施されている。また、財務情報公開の必要性を認識しており、財務諸表の公開準備及び財務情報公開に関する規程を整備する予定である。

(9)法令等の遵守

本校は設置学科ごとに毎年度養成報告を実施し、設置基準等の法令について遵守している。

今年度は「自己点検評価実施に向けての準備を進める」ことを重点目標として取り上げ、自己点検評価委員会を中心に「専門学校等評価基準書 Ver. 4.0」の評価項目に基づいて自己点検・自己評価を実施し、学校運営や教育活動の改善を進めることができた。

今後は第三者評価を視野に入れ学校関係者評価の実施に向け準備を進めていくとともに、財務情報を含めた積極的な学校情報の公開に取り組んでいく予定である。

(10)社会貢献・地域貢献

後藤学園は、「地域に信頼され、地域と共に歩む学園」を目指し、教育・研究・臨床の側面から、地域・社会の諸問題の解決に取り組むことを宣言し、地域・社会に対して貢献できるように努めている。附属施設として、はりきゅう臨床施設、横浜国際プールはりきゅうマッサージ室では、鍼灸マッサージの施術を行っている。

今年度、地域・社会貢献については親子マッサージ教室、転倒予防のための講座などを行ってきたが十分とはいえない。今後に向けて内容の検討を行い積極的に取り組んでいく。

(11)国際交流

後藤学園として、アメリカ（カルフォルニア州立大学ロングビーチ校、パークレー鍼・統合医療専門職大学院）や中国（北京中医薬大学・天津中医薬大学）、ドイツ（VPT アカデミー）の学校・教育機関と早期より学術交流提携を実施し、本校独自の留学制度を設けている。

今後は、留学に関する情報を整理し、分かりやすく情報提供できるように取り組んでいく予定である。